

あわら市誕生5周年記念
ふるさとあわら地域力コンテスト

まちづくり事例集





あわら市長 橋本達也

近年の情報化の進展により、わたしたちは新聞やテレビ、ラジオ、インターネットなどをとおして、さまざまな情報に接し、また、携帯電話などを使って、いつでもだれとでも情報の交換ができるようになりました。とりわけ情報面に関していえば、あわら市という、いわゆる地方に暮らすわたしたちも、都会の人たちと何ら変わることはない生活を送っているといえます。

ところが、手軽に情報を入手できるようになった反面、生活様式の変化なども加わって、これまでコミュニケーションの中心的役割を担ってきた「ご近所づきあい」や「地域のつながり」が、だんだん希薄になっているような気がしてなりません。

また、プライバシーの尊重や個人志向の多様化という名目で、他人への干渉を忌避する風潮も顕著となっています。

しかしながら、わたしたちは決して一人で生きていくことはできません。

こうしたことから、あわら市では、人と人とのつながりや交わりこそが地域を元気にし、まちを活性化させる原動力であると考え、その再生を目指して、市内の行政区や市民活動団体などの皆さんから、これまで実践してきたまちづくりや課題解決のためのアイデアなどを募集しました。

「ふるさとあわら地域力コンテスト」と名付けたこのコンテストには、平成20年12月末までに41の団体から45の事例の応募がありました。

この「まちづくり事例集」は、コンテストに寄せられたさまざまな取組を取りまとめたものです。

コンテストと称する以上、各賞は設けましたが、一読すれば、いずれの取組も地域を元気にし、まちを活性化し、そしてあわら市を輝かせるアイデアにあふれていることがお分かりいただけると思います。

今回のコンテストには45の事例の応募がありましたが、市内にはまだまだすばらしい取組や活動実績が存在するに違いありません。

合併により行政区域が広がったことで、地域コミュニティやまちづくり活動の重要性が一段と増してきています。

あわら市といたしましては、今後もこうした地道な取組や活動にスポットを当て、地域が、地域のアイデアで、地域の力を存分に発揮できる気運と土壌づくりを進めて参りたいと考えています。

あわら市の元気の素ともいえるこの事例集が、地域でまちづくり活動に取り組み、活躍される皆さんの今後のご参考になれば幸いに存じます。

平成21年3月

目 次

■ふるさとあわら地域力大賞ノミネート事例（6団体）

おはなしホイホイ（名作童話を読む母の会）	1
地域ささえ合い事業・安全で安心な街づくり事業（名泉郷すみよい街を創る会〔略称：名創会〕）	1
除雪に対する取組（北区）	2
音で何かが出来る！音楽が泉のように湧き出る街に（音泉組）	3
自主防災組織の設立と活動（二面温泉区自主防災会）	4
吉崎神楽の伝承（吉崎神楽保存会）	5

■ふるさとあわら地域力奨励賞受賞事例（10団体）

不動尊まつり（笹岡子供会）	6
グリーンウェル環境祭（特定非営利活動法人グリーンウェル）	6
ふれあい交流事業（中浜子ども会）	7
健康づくり活動と環境保全活動、ふれあい活動（西温泉長寿会）	8
鉄で遊ぼう（特定非営利活動法人加越たたら研究会）	9
響フェスティバル（滝区〔越前雨乞い太鼓保存会〕）	10
ボランティア活動を通じて地域の良さを引き出す（ぶなの森の会）	11
水上ねぶたの製作（湖畔の夕べ実行委員会）	12
地域コミュニティ広報紙「かいちばん」の発行（田中々区）	13
地域ぐるみの学童通学路除雪（菅野区）	13

■ふるさとあわら地域力コンテスト応募事例

高齢者、障害者のホームヘルプサービス事業

ふれあい交流のためのディサービス事業（特定非営利活動法人よつ葉会福祉サービスひなた）	15
みんなでエコしましょう！超簡単「キャンドルづくり」（上番区）	16
秋祭り（収穫祭）（中浜区）	17
児童公園整備事業（指中区）	18
夏祭り（中浜青壮年会）	19
集落活性化と区民親睦のための取組（中浜青壮年会）	19
区の環境保全と区民の安全のための奉仕作業（中浜青壮年会）	20
注連縄づくり（中浜青壮年会）	20
高齢者の談話室、趣味活動（古町長寿会）	21
区および各種団体の活動（山室区）	21
区民の教養の高揚と交流、親睦を目的とする事業（六日区区民講座）	22
子供みこし（北区）	22
女性部事業（あわらし商工会女性部）	23
ゆりの会（熊坂区ゆりの会）	24
あそぼっさ！（金津かるたクラブ）	25
健康で長生き&地域との絆かたく（名泉郷老人クラブ〔宝寿会〕）	26
地域づくり世代間交流事業（舟津温泉寿会）	27
民謡・金津恋々、金津音頭普及活動（金津民謡クラブ）	28
地域の農業を活性化し元気を取り戻す（剣岳ファーム）	29
集落センター清掃事業（城区婦人会）	29
二温祭の実施（二温祭実行委員会）	29
地域資源を活用した取り組み（剣岳ゆめの会）	30
青年団主催報恩講（城区青年団）	31
花壇づくり・イキイキ3B体操クラブ・芦原っ子見守り隊（西温泉区花友会）	31
農地・水・環境保全向上対策活動（番田・美土里を創り育てる会〔略称：番田・美土里会〕）	32
吉崎御山の緑化推進事業（吉崎御山植樹実行委員会）	33
町興し地域活性化事業（蓮如の里物産展実行委員会）	34
地区遊園地の草取り美化活動（金津第一老人クラブ）	35
景観作物の栽培と花いっぱい運動（二面老人会）	35

※各団体の代表者氏名、構成員数などは、平成20年12月26日まで募集した「ふるさとあわら地域力コンテスト」の受付時のものです。ご了承ください。

ふるさとあわら地域力大賞ノミネート事例

■おはなしホイホイ

——— 名作童話を読む母の会 代表 小阪 和江（構成員15人 昭和60年設立）

私たちの会は、当初、わが子に絵本の読み聞かせをして、よりよい親子関係を築きたいとの思いから発足しました。しかしながら、わが子が成長し手が離れるようになったのを機に、この活動の輪を地域の子どもたちに広げ、生きる力の手助けになりたいと、平成2年からは、「おはなしホイホイ」の読み聞かせへと活動の輪を広げました。



発足当初は、毎月1回図書館で開催していたものが、月2回の開催になり、2年後には、毎週土曜日の開催（午後2時～2時30分）になって、今日に至っています。

主な活動内容は、次のとおりです。

- ・おはなしホイホイ「クリスマス会」開催（12月）
- ・出前活動（保育所、小学校、三国芦原金津青年会議所、生協、公民館、児童館、福祉施設）
- ・金津高校IPT講座（進路選択授業）への講師派遣
- ・例会（毎月1回）、研修会（年1～2回）の開催
- ・県等が主催する児童文学読み聞かせ研修会への参加
- ・製作物（手遊び人形、カード、紙芝居など）の作成
- ・わらべうた、手遊び歌の修得と普及

表彰履歴

- 平成14年2月 美しい坂井を創る会
- 平成15年5月 あすの福井県を創る会
- 平成16年4月 文部科学大臣賞受賞

今後の活動見込み

平成20年末で「おはなしホイホイ」は885回を数えるまでになりました。



今後も子どもたちの自立や生きる力の手助けとなるよう「おはなしホイホイ」の1000回記念を目標に、さらに次世代の若者に活動をつなげていきたいと考えています。

「おはなしホイホイ」を聞いた子が親になり、自分の子どもと聞きに来てくれたり、ホイホイの担い手になってくれたりして、着実に活動の輪が広がっています。

また、高校生への指導で、次代を担う子どもたちが育ちつつあることに活動意欲をかき立てられます。



■地域ささえ合い事業・安全で安心な街づくり事業

——— 名泉郷すみよい街を創る会（略称：名創会） 会長 左高 源弘（構成員121人 平成15年設立）

私たちは、名泉郷区の有志でつくる自主団体で、主に名泉郷会館を拠点に、世代間を越えたふれあい事業を実施しています。事業に要する経費も会員の負担金で賄っています。

主な活動内容は次のとおりです。

- ①そば打ち実習会と餅つき大会を実施して、子どもたちとのふれあいと思い出づくりを図るとともに、できあがった餅は、福祉餅として70歳以上のお年寄りのお宅へ配り親睦を深めました。



②警察署の協力を得て、お年寄りや子どもなど交通弱者のための安全講習会を開催し、正しい交通安全知識や、道路の歩き方、自転車の運転マナーなどの指導を受けました。また、警察署と県防犯協会の協力を得て、防犯講習会と防犯ドクターによる希望課程への防犯診断を実施しました。



このほか、消防署の協力を得て、AEDの使用講習と防火指導を受けました。

■除雪に対する取組

——— 北区 区長 児嶋 文男（構成員100人）

北区は、坪江地区のほぼ中央に位置する、戸数25戸の小さい区です。区内の市道は、幅員が3～4メートルと狭く、大きな除雪車では除雪が困難なうえ、生活道路としての区道も家が近接しているため雪のやり場がない状態で、冬期の除雪には大変苦勞していました。

また、市が行う除雪を待っていたのでは、朝の通勤・通学時間にはとうてい間に合わない状況であり、特に緊急車両の通行確保が区としての大きな課題となっていました。

このような状況の中で、昭和56年の豪雪をきっかけに、区内の除雪は行政任せではなく、区の問題として区民自らが解決しようとする気運が生まれ、翌年の昭和57年には、とうとう中古の除雪車（ホイールローダー）を購入しました。以後、今日まで26年間、途切れることなく区民による除雪活動を行っています。

③3年前から青色回転灯装着車両を2台配備して、区の内外周辺を防犯巡回パトロールをして啓蒙活動を行うとともに、毎日各家庭とスクールバス停間の児童の登下校時の安全見守りと挨拶運動を実施しています。

④毎月第1月曜日を統一集団防犯日として、午後7時に会館に集合し、3班に分かれて区内を歩いて巡回し、火の用心と防犯の啓蒙活動を実施しています。こうした取組は、平成19年度地域安全安心ステーションモデル団体として警察庁長官の指定を受けて防犯用具等多数の貸し付けを受けて活動しています。また、平成19年にあわら警察署長と同協議会長から感謝状を、平成20年には地域防犯功勞団体として県知事表彰を受けました。

今後の活動見込み

区民相互の団結と親睦を一層深めて、地域で支え合う環境を創り、防犯、防火、防災に全員で邁進していきます。



現在は、平成13年に購入した除雪車を使用し、7人の除雪委員が作業に当たっています。

除雪作業の範囲は、区内の市道870メートル、区道400メートルのほか、坪江駐在所、消防分団車庫など

もボランティアで除雪しています。

こうした取組をはじめて以降、大雪の際でも、区内の道路に関しては、朝の通勤・通学にまったく影響なく通行できます。

そして、何よりも大きな効果としては、区民同士が助け合う組織体としての集落意識が強くなり、何事に対しても区民が一致協力する気風が培われたことです。

皆さんの区でも検討してはいかがでしょうか。

今後の活動見込み

今後もこうした活動を続けていきます。



■音で何かが出来る！音楽が泉のように湧き出る街に

————— 音泉組 局長 東 和彦 (構成員12人 平成19年設立)

私たち音泉組は、音楽を通して、あわら市を、そして地域を元気にしたいとの思いから平成19年に結成しました。

結成以来、セントピア広場を中心に、市内の公共施設や空き店舗などで、毎週末1日も休まずにコンサート活動を続けてきました。



コンサートの開始時刻は午後8時。そのコンセプトは、旅館の宿泊客の皆さんが、夕食をとられたあと、ふらりと温泉街に足を運んだときに、どこからともなく歌や音楽が聞こえてくる、音楽につられて宿泊客が

温泉街をそぞろ歩く、というような期待にあります。

おかげさまで、地域の皆さんや、浴衣がけのお客さんにも喜んでいただけるようになりました。また、当初2～3人で発足した音泉組も徐々にメンバーが増え、今では12人が参加しています。

私たちはこうした週末のコンサート以外にも、次のような活動を行っています。

- ・病院、福祉施設等における慰問の演奏会
- ・お祭りや地区のまつり、福祉イベント、宴席などでの演奏
- ・えちぜん鉄道とタイアップした歌声電車の運行
- ・歳末助け合い募金運動に協賛したJR芦原温泉駅ミニコンサートの開催
- ・音楽文化の向上と青少年育成を目的に、子どもたちへの楽器演奏の指導
- ・福井県産材の杉を使ったカホンという打楽器の企画と製作
- ・音楽による地域間交流（嶺南の活動家たちとの音楽交流）
- ・あわら市にちなんだ曲の企画立案（芦原節のリメイク、あわら八景など）

以上のように、音楽を通してあわら市が少しでも元気になるばと思っ活動しています。

今後の活動見込み

これからも週末コンサートやJR芦原温泉駅でのコンサートを続けていくほか、嶺南・美浜町の仲間とも連携して、春秋年2回、交互に音楽と地元物産、観光などを絡めたコンサートイベントも企画しています。(平成21年は4月29日にあわら市で開催)

また、私たちが企画製作した打楽器「カホン」につ

いて、平成21年の全国植樹祭での使用の打診も受けています。これからは、このカホンを県内の音楽家に提供したり、教育機関に紹介したりしていきたいと考えています。

さらに、NPO法人など他の団体とのコラボレーションや新たなイベントを企画して、活動の幅を広げていきたいと考えています。



■ 自主防災組織の設立と活動

——— 二面温泉区自主防災会 会長 高橋 啓一（構成員677世帯 平成19年設立）

二面温泉区は、世帯数677世帯、人口1,410人と、あわら市最大の行政区です。

近年は、老人世帯の増加とともに人口の高齢化が進んでいることから、多発する自然災害から一人暮らしのお年寄りをはじめ、すべての区民を守るための組織づくりが急務となっていました。

そこで、平成19年度に「災害対策検討委員会」を立ち上げ、度重なる会議と視察研修などを経て、ようやく平成19年12月に、あわら市で初めての「二面温泉区自主防災会」を設立しました。



その後、二面温泉区独自の防災援護活動調査（日中のいつ頃在宅しているか、就寝場所はどこかなどの調査）を続け、現在までに約8割の世帯について調査が完了しています。

また、「高齢者等の要介護者は、もしものときに指定避難場所まで行けないのでは」との意見から、温泉場としての地の利を生かし、区内にある10の旅館に依頼し、災害時には旅館施設を開放してもらうことについての同意も取り付けています。

さらに、平成20年度に入り、災害時には必要な食料はもとより、情報収集や消火活動、救出・救護などを行うための資機材が必要であるとのことから、市の支援をいただきながら、コミュニティ助成により防災資



機材を整備することができました。

平成20年9月には、第1回の区防災訓練を行い、安否確認訓練、放水訓練、防災資機材の説明、AED救助訓練、阪神淡路大震災の語り部による講演会、炊き出し訓練などを実施しました。



今後の活動見込み

今後も定期的な防災訓練を行い、組織の強化を図り、いつ起こるかわからない災害に、万全の備えをしていきたいと考えています。

また、現在区内の防災マップを作成中で、危険箇所の確認や初期避難場所及び避難ルートを選定を行っています。

■吉崎神楽の伝承

————— 吉崎神楽保存会 会長 桶谷 洋治（構成員20人 平成13年設立）

毎年9月、吉崎区内の春日神社の秋祭りに合わせて、古くから吉崎に伝わる伊勢神楽を吉崎神楽保存会が奉納し、区内や隣接する浜坂区、加賀市吉崎町の計120軒をまわり、神楽を舞って厄払いをします。



平成20年は、9月14日に秋祭りがあり、朝7時30分から区内の民家を1軒ずつ訪問し、雌の獅子頭をかぶった会員たちが、路上で笛や太鼓の音に合わせ、「扇の舞」「天の岩戸」など6つの舞いを披露しました。この獅子頭は春日神社の宝物で、桐の根株の一刀彫によって創られており、塗装は輪島塗、総重量は約1.5kgあります。歯でくわえ支えて踊るので、大変な体力を必要とします。

区民は、毎年神楽の訪問を楽しみにしており、子どもたちは大人の陰に隠れながら、おそろおそろ見守っていました。



伊勢神楽が吉崎に伝えられたルートや区内で行われるようになった時期は定かではありません。大正時代には既に行われていたともいわれていますが、次のような逸話もあります。

「蓮如上人が吉崎にいらっしゃった頃の話で、上人が遠く東方へ布教活動に行っておられたとき、何カ月たっても帰ってこられない上人を村人はみんな心配していたそうです。そんな中、布教活動からひょっこり戻

ってこられた上人を見て、吉崎の村人は大喜びしたそうです。そこで神楽をして、村人みんなで上人のお帰りをお祝いしたということが、御文に書かれているそうです。」

蓮如さんが吉崎にいた1471年から1474年までの4年間の逸話なので、神楽は500年以上続いているとも考えられます。

また、この神楽にはいろいろないわれもあり、「無病息災」「家内安全」「五穀豊穡」「大願成就」など、大変縁起がよいものといわれ、獅子に頭をかんでもらうと、頭がよくなる、健康でいられるなどともいわれ、舞うたびに区民や通りかかった観光客から、かんでほしいとせがまれたりします。

これまで吉崎青年団が代々神楽を継承してきましたが、団員が少なくなり継続できなくなりました。そこで平成13年に地元壮年の有志が中心となって保存会を立ち上げ、現在に至っているものです。

今後の活動見込み

地元で昔から伝わる伝統芸能を、これからも後世に伝えていきたいと考えています。



4月には御山で「連如の里を歩く会」を歓迎

ふるさとあわら地域力奨励賞受賞事例

■不動尊まつり

——— 笹岡子供会 会長 岡田 健司（構成員15人 昭和58年設立）

笹岡区子供会では、毎年8月28日午後6時から、清水元（しょうずもと）公園で「不動尊（不動さん）まつり」を行っています。

清水元は、明治初期から笹岡区民の憩いの場として親しまれてきました。また、近郷からも多くの方がこの清水を汲みに訪れます。



このまつりは、昭和50年ごろまでは、当区に居られた尼僧がとり行っていました。病気で亡くなられた後、約7年間中断していました。これを昭和57年に区の行事として復活させ、昭和58年からは、夏休み最後の思い出として、子供会が継承するようになりました。以後は、一度の中断もありません。

まつりの当日は、午前中に、子供会の会員である小学生と保護者が、総出で不動様の周辺や水汲み場等の清掃に汗を流し、午後3時ごろからお花や野菜、果物、飲み物などを供えて祭場をつくります。

夕方6時ごろからは、寺院の住職による読経がありますが、このときには、子供会以外にも多くの区民が参拝し、お賽銭をあげ、ロウソクを1本ともして、秋の実りと子供たちの成長を願います。



住職退席後は、参加者全員で供え物のお菓子や飲み物をいただきながら、ゲームや花火をして夏休み最後の夜を楽しく過ごします。

なお、今年は、まつりのために、8月初めから行灯づくりに取り組んできました。会場の周りに並べられた手づくりの行灯に灯が入ると、まつりの雰囲気も最高に盛り上がりました。

来年もまたやるぞー！

今後の活動見込み

子供たちがいる限り、永遠に取り組んでいきます。



■グリーンウェル環境祭

——— 特定非営利活動法人 グリーンウェル 代表 関 法子（構成員25人 平成13年設立）

私たち特定非営利活動法人グリーンウェルは、自然環境の保護、社会福祉の向上、青少年の健全育成を目的に、さまざまな活動を行っています。

こうした活動の中でも、環境を前面に押し出したのが「グリーンウェル環境祭」です。

平成20年6月に開催した第9回環境祭は、「ロウソク作り」や「自然学習」などを通じて自然環境の大切さを知ること、親子の交流を深めることを目的に開催



ミニミニコンサート

しました。

日時等の詳細は、次のとおりです。

と き：2008年6月15日（日）13時～16時

受 付：J A花咲ふくい坪江倉庫

会 場：金津東小学校周辺及び

J A花咲ふくい坪江倉庫

参加費：子ども200円 おとな200円

当日の主な事業内容は次のとおりです。

- ①オリエンテーリング&エコクイズ
- ②エコろうそく作り・{蜜ロウ(蜂) 雪ロウ(カガウ虫)}
・使用済み和蠟燭{モクロウ(ハゼの実)}・廃油などで
- ③森のはかせによる自然環境実験&実習
- ④ナチュラルクリーニング たわし製作

【実績】参加者50人（親子計40人、支援スタッフ10人）



エコろうそく作り

今後の活動見込み

今後も3本柱の「自然環境保護」「社会福祉の向上」「青少年の健全育成」を基本理念に、地元あわら市を中心として、地域発展のために貢献して行きたいと考えております。

平成21年度の事業予定：

環境際(H21.6月)、自然体験事業(H21.8月)、車椅子ツインバスケット(H21.10月)、研修(H22.2月)など



■ふれあい交流事業

————— 中浜子ども会 育成会長 白石 康紀（構成員72人）

新郷小学校下では、近年児童数が減少し、市の試算によれば4年後には全校児童36人にまでなるとのことで、小学校の存続さえ危ぶまれています。そこで、中浜子ども会育成会では、少子化対策として、安心して子育てができる環境の整備と、横のつながり、縦のつながりの強化が必要と考え次のような取組を行いました。

1 環境保全・お年寄り（地域住民）と子供の交流

子どもたちが地域に育てられるためには、横のつながり、つまり、近所にどのような子がいるのかを地域の人に知ってもらうことが必要と考えました。

そのために、お年寄りの方々と交流し、子どもたちのことを知ってもらうための取組を計画しました。ちょうど、市の花いっぱい運動で配られた花の苗の植え付け作業があることを聞き、子どもたちも参加させてもらうことにしました。

区民館前の花壇で行った作業には、子どもたちと老人会の皆さんが一緒になって取り組み、会話をしたり、

また、花の植え方について子どもたちの意見をお年寄りが尊重してくれたりと、とても有意義な活動になりました。



このほかにも、定期的に集落周辺の空き缶拾いを行ったり、神社の清掃を行い、集落の美化に取り組みました。



2 あいさつ運動・子どもの見守り運動

お年寄りとの交流は、思わぬ効果を生み出しました。登下校時や遊んでいるときなどに、気軽にあいさつを交わしたり、会話する風景が見られるようになったことです。また、子どもたちが危険な場所で遊んでいると、その場で叱ってくれるなど、地域に見守られていることが実感できるようになり、保護者の間に安心感が広がりました。

3 子育て支援事業

子ども会への入会は、幼稚園が本荘幼稚園に統合されてから、小学校入学からとしていましたが、縦のつながりを強くするという目的で、5歳児の幼稚園児にも入会を呼びかけました。

その結果、夏のキャンプには、途中参加も含め、すべての幼児が参加してくれました。このことで何よりうれしかったのは、夏休みのラジオ体操にほとんどの幼児が休まず参加してくれたことと、小学生と幼稚園の交流会のときに、幼稚園の子どもたちが小学生に手を振ったり声をかけてくれたりしたことです。こうし

たことは近年見られなかったことで、これにより、小学生も幼稚園の園児に親しみを持つことができ、小学校入学の際もスムーズにとけ込めるのではないかと思います。



このほか、若い保護者に親子での遊び場所を紹介したり、一緒に活動したりする中で、子育ての悩みや不安などについても互いに相談しあっています。

今後の活動見込み

今後も引き続き、地域の活動に参加し、地域住民との交流を図っていききたいと思います。また、幼稚園児と保護者に対する子ども会参加の呼びかけも引き続き行っていきたいと考えています。

新しい取組としては、保護者が子どもたちとともに、地域の自然の中で、昔自分たちが遊んだようなこと、たとえば、魚採りや虫取りをする自然体験活動をする機会を設けたいと考えています。

このことにより、子どもたちはもちろん、保護者にも自分たちの生まれ育った土地を愛する心が強くなるのではないかと思います。

■健康づくり活動と環境保全活動、ふれあい活動

——— 西温泉長寿会 会長 黒川 修一（構成員43人 昭和56年設立）

私たち西温泉長寿会では、グラウンドゴルフを通じた健康づくりや環境保全活動、ふれあい活動などを行っています。

1 グラウンドゴルフを通じた健康づくり活動

私たちは、平成17年度に市老人クラブ連合会主催の「世代間交流実践事業」をきっかけに、グラウンドゴルフを通じた健康づくりと会の活性化に取り組んできました。

平成17年7月に初めて導入した頃は、用具一式をその都度農業者トレーニングセンターから借りていましたが、今ではこうした備品も自分たちでそろえるまで

になっています。

グラウンドゴルフを行うに当たっては、会員制はと



らず、区のだれもが自由に参加できるようにしました。

区の公園を中心とした活動から、各種大会や、夏休み中の子どもたちとの交流等にも積極的に参加するようになりました。和気あいあいとゲームを楽しみ、心身共に活力が得られるようになったことで、こうした取組を続けてきてよかったと感じています。

また、私たちの取組がきっかけとなって、西温泉区の体育協会主催のグラウンドゴルフ大会も開催されるようになりました。

このほか、会員の健康管理を目的に、平成20年3月から運動機能体力測定を行いました。以後毎年3月にこの測定を行い、体力づくりと健康に関する意識向上を図っています。

2 環境保全活動

公園内の花壇については、苗の購入、植え付け、施肥、除草、水やり等を私たちが行っています。また、樹木への施肥や、公園周辺の低木の剪定、地藏堂周辺の清掃を行うとともに、区が年2回実施する公園の除草清掃のほかに、会で自主的に年2～3回の清掃を行うほか、日頃から区内の清掃を行い、地域ぐるみで環境の美化と維持に努めています。

区民館の清掃は、区が年2回行っていますが、私たちは、毎月4人ずつの順番を決めて、区民館の清掃を行い、いつでも気持ちよく利用できるように努めています。

3 ふれあい活動

毎年区民館において、そば打ち賞味会を開き、子どもから大人まで参加して交流したり、市の社会福祉協議会と共催で「いきいきサロン」を年4回開催したりしています。この開催日には、参加者全員で食事を作り、昼食をとりながら楽しいひととき過ごしたり、アートフラワーづくりなども楽しんだりしています。

私たちは、会員43人のミニ老人クラブですが、各種



行事や年4回の懇親会には多くの会員が参加しており、こうした積極的な姿勢が本会の強い地盤となっています。

今後の活動見込み

今後は、区をはじめ区の各種団体と協力しながら、温かい地域づくりを目指して、人縁、地縁に根ざした住民感情の醸成に努めていきたいと考えています。

これまで行ってきた事業を今後も続けていくとともに、新たな取組として、誕生から39年の歴史を有する西温泉区の区史の編纂も手がけていきたいと考えています。

このほか、西温泉区の児童が増えてきているなか、区民館内の図書を充実して、子ども会の活動に協力していきたいと考えています。

■鉄で遊ぼう

——— 特定非営利活動法人 加越たたら研究会 理事長 宇都宮 高栄 (構成員37人 平成8年設立)

1970年にあわら市細呂木で古代製鉄遺跡が発見され、「金津」が鉄の川港であったことが確認されました。

製鉄して農具をつくり、開墾を進め、横山古墳群の流星に見られる「越の大国・越前」を形成したといわれています。

古代から現代に至るまで、生活文化の「ものづくり」技術は、地域に潜在・密着しており、この歴史の追体

験は、現在の地域づくりに通じると考えています。

私たちは、古代文化やまちづくりに関心のある住民に対し、継続して古代製鉄の公開実験を行うことにより、古代文化の啓蒙・普及、地域づくりに寄与することを念じて活動しています。

小・中学生には鉄に関する実験や歴史授業を行い、一般市民には鉄鑄造の文化祭出展、講演会、古代製鉄



公開実験を行い、古代鉄にまつわる地域の生活文化を研究しています。

また、「越の大国・越前」を視野に入れた即位1500年記念の継体天皇鉄鑄像を制作するとともに、古代製鉄の初期にはソブ（鉄分の赤泥沈殿物）を原料としたとの仮説をたて、実際に鉄をつくり、鉄斧を制作展示しました。

■響フェスティバル

——— 滝区（越前雨乞い太鼓保存会）

区長 幸川 与一（構成員350人 平成6年設立）

滝区では、平成6年から毎年秋に響フェスティバルと銘打って、越前雨乞い太鼓の育成と、地域の活性化の一助になればと取り組んできました。

始めたばかりの頃は、田んぼに舞台をつくって実施していましたが、降雨等により、出演者や観客に支障がでることなどから、4年前に神社境内に雨天でも支



さらに、こうした取組を、広報紙「たたら通信」により発信してきました。



今後の活動見込み

今後もこうした活動を継続するとともに、次のような取組も行っていきます。

- ・古代の鉄づくりを核としつつ、広義の古代生活文化（技術）を追体験する。
- ・製鉄遺跡・古墳資料など、地域文化遺産を市民レベルで整理する。
- ・古老の経験と知恵を交えながら次の世代に伝承していく。

障のない常設舞台をつくり、毎年9月23日に実施しています。



現在では、集落外からはもちろんのこと、市外からも観客が訪れ、ますます盛大に行われるようになりました。

内容は、太鼓の響演3～4チームのほか、大正琴、

舞踊、歌謡ショーなどがあり、近年ではフラダンスや三味線なども披露されるようになりました。

この響フェスティバルの経費は、1戸3,000円の協力費と、模擬店の売り上げなどで賄われています。

今後の活動見込み

今後も、この響フェスティバルを続けていきます。



■ ボランティア活動を通じて地域の良さを引き出す

——— ぶなの森の会 代表 児玉 強 (構成員10人 平成10年設立)

私たちぶなの森の会では、毎年5月中旬の日曜日に、刈安山からの稜線を剣ヶ岳に向かって歩きながら、樹木の名前を調べたり、地域にまつわる歴史を語り合ったりします。



その後、稜線上の大木のある杜で、ささやかなコンサートを催して、自然に抱かれながら心洗われるひとときを過ごしています。



また、12月中旬には、麓の松龍寺において新そば会を開催し、自然の恵みに感謝するとともに、寺周辺の歴史に思いを馳せています。

今後の活動見込み

私たちの取組も、今年で10年を迎えましたが、これからもこうした活動を続け、ふるさとのすばらしさを、地元の人たちはもとより地元以外の皆さんにも知ってもらい、たくさんの人たちを元気づけたいと考えています。

平成20年9月に主要なメンバーの1人が亡くなりましたが、これからは新しい仲間も増やしていきたいと考えています。

■水上ねぶたの製作

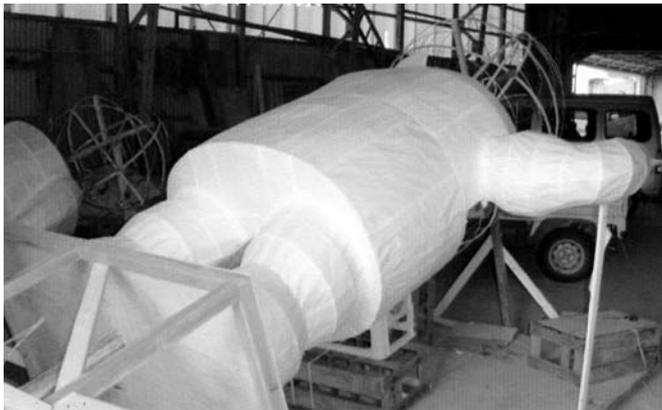
——— 湖畔の夕べ実行委員会 委員長 吉崎地区区長会長（構成員14人 昭和57年設立）

吉崎地区では、汀公園をメイン会場に、毎年7月第4土曜日に「吉崎・湖畔の夕べ」を開催しています。

第26回目となった平成20年は、7月26日に開催し、来場者は模擬店の手作り料理や飲物を楽しみながら、特設舞台での詩吟やフォークソング、吉崎小学校児童による歌の発表を観覧しました。毎年、あわら市内や加賀市などの近隣地域からも大勢の方にお越しいただき、区民との親交を深めていただいています。

この祭りの盛り上げに一役買っているのが、会場を囲む北潟湖に浮かべた高さ5メートルの「水上ねぶた」です。

「水上ねぶた」は、7年前から元大工の橋詰さんと地元商店主などの有志が中心となって毎年製作しています。5月のゴールデンウィーク明けから、毎日昼過ぎから夕方にかけて、地元の酒屋の倉庫に集まり手作りしています。



酒屋倉庫での製作風景

子どもたちに喜んでもらおうと、童話や民話などから題材を選び、橋詰さんが引いた精巧な図面を基に、竹や針金で骨組みを作り、中に蛍光灯や電球を取り付けたあと、和紙を貼り、ポスターカラーで模様を描いていきます。吉崎小学校の児童も製作現場に見学を訪れ、和紙貼りなどの手伝いをしています。



平成20年の題材は、「桃太郎の鬼退治」。長さ2メートルの金棒を持った高さ5メートルの赤鬼と桃太郎、サル、犬、キジの5体を製作しました。



湖面に浮かぶ桃太郎たち

祭りの2週間ほど前に、筏に乗せて北潟湖に浮かべます。鹿島の森の深い緑をバックに、湖面に浮かぶねぶたは、まさに芸術品といえます。夕日が沈みだし、周りが薄暗くなると、ねぶたはライトアップされ、幻想的な情緒を醸し出します。

お盆頃までねぶたを浮かべているので、国道305号線を走る観光客やお盆に帰省した人たちの目も楽しませています。

お盆が終わると、翌年まで酒屋の倉庫に保管しておきますが、最近では貸し出しの依頼も頻繁にあるようになりました。平成19年はあわら市の福祉祭り、平成20年は清滝区の夏祭りや北潟の観月の夕べなどで展示されました。

元大工の橋詰さんは、今年で80歳になります。実は病を患いながらの製作なのですが、本人は命のある限り続けると意気込んでおり、ここ数年、5月の製作初めのあいさつは「今年も何とか命があったわ」が恒例になっています。

今後の活動見込み

吉崎の夏の風物詩として、地域住民のみならず観光客や近隣地域の方々の目を楽しませています。

今後も継続して製作し、豊かな地域づくりと子どもたちの郷土愛を育てていきたいと考えています。

■地域コミュニティ広報紙「かいちばん」の発行

——— 田中々区 区長 松井 義三（構成員64世帯）

私たち田中々区では、平成2年6月に開催した「田中々区生活会議」において、区の運動テーマを「美しい健康の村づくり」と定め、その一環として、広報紙「かいちばん」を発行することにしました。

平成2年7月に第1号を発行し、以後毎月1回発行し続け、平成20年12月で210号まで発行するに至りました。

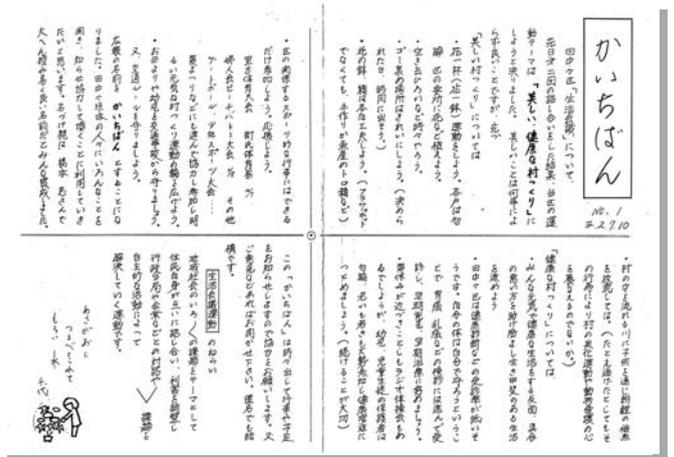
掲載内容は、区や農家組合、婦人会、老人会、神社、お寺の行事や連絡事項、短歌や川柳の発表、冠婚葬祭情報など、身近な情報を発信しています。

現在の編集者は六代目ですが、生涯学習推進委員も兼ねており、明るく住みたくなる自慢の村づくりに貢献しています。

区の広報紙として、区をあげて全面的にバックアップし、今後も発行し続けて、初期の目標達成に邁進し、田中々区の歴史を刻み続けていきたいと考えています。

今後の活動見込み

紙面をより見やすくするような工夫、たとえばカラー印刷や写真の掲載を検討しながら、これからも「美しい健康なむら・明るく住みよい自慢のむら」の実現に資するような広報紙として、「かいちばん」を活用していきたいと、区民一同バックアップしていきます。



■地域ぐるみの学童通学路除雪

——— 菅野区 区長 山口 雅夫（構成員63世帯）

1 通学路除雪の経緯

菅野区の学童は伊井小学校へ徒歩で通っておりますが、その距離は約2キロメートルと長く、その区間には交通量の多い県道や竹田川を渡るなど児童にとって危険な部分が多くあります。

また、当区は山間部に位置するため、特に降雪期には歩行の困難、転倒、転落等の危険が増し、冬場の児童通学安全確保に昔から苦勞しておりました。

そのような中であって、昭和63年に、県の地域ぐるみ歩道除雪活動事業（事業費323千円、県1/3町1/3補助）の募集があったことから、これにいち早く呼応し、当該事業で購入した小型ロータリー除雪機で通学路の除雪活動を開始し、以来20年間途切れることなく区民による児童通学路除雪活動を行っています。

なお、当初の除雪機も12年を経過した平成13年には老朽化が著しく修理不能となったため、再度、町の助

成を申請し、事業費997千円（町1/3補助、区負担2/3）で現在の除雪機に更新しています。



2 除雪体制

①除雪作業体制

毎年、区長が2名の人に除雪委員をお願いしております。除雪作業は、午前5時頃から始め、児童が通学する午前7時までに業務を終えるようにしています。

②除雪機に関する経費

除雪機に関する経費はすべて区会計から支出しています。経費としては、除雪委員手当（1千円/時間）・燃料代・修理代等があり、1年間で約7万円程度が必要です。



3 除雪活動の内容

除雪の実施状況は、末尾の地図のとおりです。また、学校周辺500メートルは県道のため県が歩道除雪を行っておりますので、通学ルート全線の除雪がほぼカバーできます。

また、小学校の通学路除雪終了後は、中学生や通勤者のために、金津方面のルートも速やかに除雪しています。

4 除雪活動の効果

県の地域ぐるみ歩道除雪活動事業で除雪機を購入した区は、当区のほかに十数区あったそうですが、機械の老朽化とともに活動も停止状態とお聞きしております。

しかし、除雪委員2名の人選と受諾には時折苦勞することもあります。お蔭様で当区においては、地区の子供達は地区で守るとの意識が定着し、早朝から通学路の除雪に当たっていただいております。

その結果、これまで幾度となくあった大雪の際にも、子供達を安全に通学させることができました。



そして、何よりも大きな効果としては、区民同士が助け合う組織体としての集落意識が強くなり、何事に対しても区民が一致協力する気風が培われたことです。

今後の活動見込み

近年、児童や生徒の通学にあたっては各家庭の自動車による送迎が増えています。しかし、本来、子供たちが自ら集団により登下校をすることにより、相互のコミュニティや協力が生じるものと考えられます。

区の将来を担う子どもたちを守るため、市や県と連携しながら、今後も地域ぐるみの学童通学路除雪を行っていきたいと考えています。

■高齢者、障害者のホームヘルプサービス事業 ふれあい交流のためのデイサービス事業

——— 特定非営利活動法人 よつ葉会福祉サービスひなた

私たちは、助け合いの精神に基づき、「みんなで支えあう社会づくり」をスローガンに、高齢者や障害を持つ方々が生き生きと自分らしく暮らしていけるように、在宅福祉サービス事業を行い、こうした方々の社会参加の促進と、地域のコミュニティづくり、福祉の増進などを進めています。

主な事業は次のとおりです。

■高齢者や障害者に対するホームヘルプサービス事業

- ・自家用車を利用した移動介助サービス（外出支援）、移動相談、家事援助

■ふれあい交流のためのデイサービス事業

- ・子育て支援（子供の一時預かり）、サロン（料理教室、各種レクリエーション等）

このような事業をとおして、すべての人が、どのような身体になっても地域で暮らしていけるよう支援していきます。



□平成19年度の事業実績

移動サービス（延べ利用人数563人、利用件数715回、活動人数85人）

ホームヘルプ（延べ利用人数89人、利用件数114回、活動人数92人）

デイサービス（延べ利用人数31人、利用件数15回、活動人数56人）

□これまでの経緯

平成18年3月 セダン特区による福祉有償運送が許可される

平成18年4月 福井県内の移動関連団体とのネットワーク化に取り組む

平成19年3月 福井県社協主催のまちづくりセミナーで事業成果発表

理事長 齊藤 和子（構成員145人 平成13年設立）

平成19年4月 福井移動サービス研究会発足

平成20年1月 介護保険事業・訪問介護事業所福祉サービスひなた開設

平成20年2月 福井県コミュニティビジネス推進協議会からコミュニティビジネスとしての認証

平成20年3月 福祉有償運送事業として福井運輸支局に登録

今後の活動見込み

社会福祉協議会、NPO、企業（介護タクシー等）が、情報を共有し、連携を図ることで、障害を持つ方々などの移動支援の輪を広げることができます。現在は、移動が困難な方々に、福祉有償運送の仕組みや電車、バス、タクシー等のサービス内容がよく分かるリーフレットの作成に取り組んでいます。



今後、ますます高齢化が進む中、移送サービスのニーズは高まるものと予想されます。今から10年、20年先を見据えて調査・研究を重ね、より安全・安心で、決め細やかなサービスの提供を行うことで、高齢者や障害者が元気に暮らせる地域づくりに貢献したいと考えています。

さらに、私たちの活動を広めることにより、地域の雇用創出にもつなげていきたいと考えています。



■みんなでエコしましょう！超簡単「キャンドルづくり」

——— 上番区 区長 笹原 徳明（構成員30世帯）

使用済みの食用油の処分方法は、どこの家庭でも困ったもの。凝固材で固めて処分するのが一般的ですが、紙くずとは違い、ゴミ袋に入れても結構重くなります。

そこで、私たちは、この廃油を集めて、区民みんなで作るキャンドルをつくり、できあがったキャンドルを神社の祭礼の日などに並べて、いろいろな灯りを楽しむことにしました。

こうした取組をとおして、区民相互のコミュニケーションづくりを図っています。

以下、今年の活動状況です。



10月18日(土)

区民みんなで作るキャンドルづくり。とても簡単で、みんなからは「楽しかった」との声が寄せられました。また、「これなら家でもできる」「クリスマスにつくろう」と意気込むお嫁さんや姑さんの声も聞かれました。



10月26日(土)

当日は天候が悪く、風も強かったため、キャンドルの設置場所を、当初予定していた場所から神社の北側に変更しました。そうすると、とてもきれいに灯りが広がり、子どもからお年寄りまで美しい灯りに見入っていました。

今後は、こうした風の日でも大丈夫なように、キャンドルを入れる容器を改良していきたいと思っています。

今後の活動見込み

残ったキャンドルは、一本ずつメッセージを添えて、総報恩講のときに区民に配布する予定です。

また、大晦日には神社の参道に灯りを並べたり、雪の日などは各家庭に雪だるまを作りその中に灯りをともしたりして、区民相互、特に一人暮らしやお年寄りのみの家庭ともコミュニケーションを図っていきたいと思います。

このほか、あわら温泉の旅館で出る廃油を活用して、旅館でキャンドルづくりを体験できるメニューを提供したり、市民向けのエコ教室の開催したりするほか、観月の夕べなどの「あかりばやし」などもこうしたエコキャンドルを利用してはどうでしょうか。



■秋祭り（収穫祭）

——— 中浜区 区長 林 清一郎（構成員384人）

中浜区には、区民みんなが一堂に会する機会の一つに、青壮年会が旧盆に行っている夏祭りがあります。ただ、旧盆には、お嫁さんが実家に里帰りすること（逆に娘さんが嫁ぎ先から里帰りすることもあります）もあって、区民相互が親睦を図ることのできる機会の創出が求められていました。

こうして平成19年から始めたのが、中浜秋祭り（収穫祭）です。



その目的は、田園地帯に暮らす私たち区民が、秋の実に感謝しながら、餅つきやゲームなどを通して区民相互の交流と一層の親睦を図ることにあります。

中浜区は、7つの班に分かれ、それぞれ10～15戸程度の世帯で構成されています。

10月19日に開催した今年の祭りは、班別のゲーム大会と餅つきを中心に進めました。

当日は、祭りに先立ち、午前9時から嶺北消防署員の皆さんにAED講習会を行っていただきました。この講習会のときから多くの区民が参加し、10時の餅つきが終わり、11時からの班別ゲーム大会が始まるころには、区民の8割に当たる約300人が参加していました。



これは、当日仕事の人やお年寄り、学生などのことを考えると、きわめて高い参加率であるといえます。

班別対抗ゲーム大会では、小豆の皿移しリレーや、洗面器お手玉投げなど、だれにでもでき、かつ、趣向を凝らした7つのゲームを用意して、参加者が必ず1回は出場できるようにして運営しました。

区民みんなで祭りを準備し、祭りを楽しみ、祭りの後片付けを行うことにより、これまで以上に、区民の一体感と団結力を高めるとともに、一層の親睦を図ることができたと思います。



今後の活動見込み

中浜区には、年齢別に分かれた団体（老人会、中年会、山本会、中道会、双六の会、青壮年会、婦人会、子ども会）があり、それぞれが独自に、又は協力しながら、区を元気にする活動を行っています。

これからも、これらの団体と協力しながら、中浜区を盛り上げて生きたいと考えています。

さらに、今後は、安全安心な地域づくりを目指して、自主防災活動訓練なども行って生きたいと考えています。

■ 児童公園整備事業

——— 指中区 区長 藤川 竜七（構成員69戸）

指中区では、集落内にある2ヵ所の児童公園の遊具設備が、老朽化していたり、破損したりしていて、危険、汚いなどの理由で、使用されていませんでした。

区民の中からも「何とかしなければ」との意見や要望が出ていましたが、タイミングよく、市に児童遊園地遊具設置整備事業という助成事業があることがわかり、こちらを活用することになりました。



しかし、「遊具を整備するにしても、行政に甘えただけの事業ではいけない」「区民の財産なら区民も汗を流すべき」「子どもたちのために力を合わせよう」との意見が区の委員から出されたことをきっかけに、区民のボランティアと工夫による、手づくりの公園づくりを目指しました。

公園には、砂場や築山（滑り台・トンネル）、鉄棒、タイヤ飛びなどの遊び場のほか、花壇やベンチなどもつくりました。併せて、子どもたちの安全を守る防護柵の設置も行っています。

これらの作業は、区民のボランティアで行うとともに、製作用の資材は、市や関係者から端材や廃材を譲り受けるなどして調達することにより、廉価で温もりのある公園ができあがりました。

今後の維持管理は、花壇の管理を老人会が、公園の清掃を子供会が行うこととし、このことにより、お年寄りと子供たちが触れ合うことのできる場としても位置付けられるようになりました。

更に、一緒に作業する楽しさと学びの中で、この公園に対する一層の愛着が深まっていくものと期待しています。



今後の活動見込み

今後も、引き続き地域の活性化や環境整備等のため、次のような取組を行っていきます。

- ・ 指中神社合祀100年事業
- ・ 不在者の墓地整備
- ・ 自主防災組織づくり

これらの事業を行う際には、今回の児童公園整備事業のように、区民のボランティアによる作業を中心にして、工夫や知恵を使って、区の財政に極力負担をかけないで取り組んでいきたいと考えています。



■夏祭り

——— 中浜青壮年会 会長 中山 英晴（構成員22人）

中浜区の夏祭りは、昭和30年代の青年団活動華やかかりし頃は、他の集落同様、盆踊りなどを中心として盛大に行われていました。それが青年団活動が下火になるとともに、徐々に縮小され、昭和40年代半ばには、とうとう行われることはなくなり、区民が一堂に会する機会もなくなりました。

こうした状況を嘆き、何とか村を元気にしなければならぬと、私たちの先輩が夏祭りを復活させたのが、今から約30年余り前のことです。

以後は、青壮年会の主要事業として、毎年欠かすことなく行っています。

夏祭りは、毎年村から嫁いだ人や出身者が帰省する旧盆に行っています。

祭りの内容も、盆踊りやカラオケ大会などをメインに、ビンゴゲームやミニゲームなどを織り交ぜながら、区民の皆さんが楽しんでもらえるように工夫しています。

また、会場内には、祭りの定番である屋台（焼き鳥、焼きそば、カキ氷、綿菓子など）も軒を並べ、青壮年会の全メンバーがフル稼働で、夏祭りの盛り上げりに

努めています。

このほか、YOSAKOI踊りを通じて知り合った「福井県心身障害者コロニー若越ひかりの村」の皆さんには、夏祭りで踊りを披露してもらったり、そのお礼に私たちが施設の清掃に行ったりもしています。

更に、田中温泉区の皆さんとも、祭りの余興に太鼓を披露してもらうかわりに、芦原祭りの応援に行ったりと、祭りを通じた交流を行っています。

今後の活動見込み

私たち中浜青壮年会は、会員数が一時10人あまりにまで落ち込み、夏祭りの実施が危ぶまれることもありましたが、しかしながら、区民の皆さんや中浜をふるさととする皆さんに少しでも喜んでいただきたいと、会員数の拡大と会の活性化に努めてきました。

今後も、こうした取組をとおして夏祭りを続けるとともに、ほかの団体に皆さんとも交流を深めていきたいと考えています。

■集落活性化と区民親睦のための取組

——— 中浜青壮年会 会長 中山 英晴（構成員22人）

中浜区では、平成19年から「収穫祭」を行っています。

区を活性化し、区民相互の親睦を図ることを目的に始めた取組で、これから年を経るにしたがって、その内容も固まってくると思いますが、2回目となる今年の収穫祭は、餅つきと班対抗のゲーム大会を中心に行われました。

私たち青壮年会も、区で取れたキャベツをふんだんに使った焼きそばやフライドポテトを調理し、無料で区民に振る舞うなどして、行事に積極的に参加しました。

私たち青壮年会は、自ら企画し実施する夏祭りや奉仕活動など以外にも、区やその他の団体が行う事業にも積極的に参加し、区民一丸となって区を活性化する気運づくりに努めています。

今後の活動見込み

今後も、区の活性化と区民の親睦が深まるような企画やアイデアを実施していきたいと考えています。



■区的环境保全と区民の安全のための奉仕作業

——— 中浜青壮年会 会長 中山 英晴（構成員22人）

中浜区では、毎年7月下旬に神社や区民館などを清掃する社会奉仕を行っています。私たち青壮年会では、こうした区の取組以外に、独自に奉仕活動を行っています。

私たちが、毎年6月に実施するこの奉仕作業では、まず事前に会員一人一人が集落内を調査し、「これをした方がよくなる」とか「ここを改修した方がよい」といったことを前月の集会で提案しあい、作業の内容を決めています。

こうした作業以外にも、区長からの要請による場合もあります。

今まで行ってきた作業の主なものは、次のとおりです。

- ・公園遊具のペンキ塗り
- ・カーブミラー磨き
- ・区民館駐車場整備（車止め設置）
- ・集落案内地図作製
- ・空き缶拾い
- ・道路標識ペンキ塗り直し
- ・区民館清掃

今後の活動見込み

今後も、区民みんなが安全に、また暮らしやすくなるように、さまざまな活動に取り組んでいきたいと思っています。



■しめなわ 注連縄づくり

——— 中浜青壮年会 会長 中山 英晴（構成員22人）

中浜区では、毎年暮れに、区民が神社の注連縄をなっています。この作業には、区の役員と7つの班から2人ずつ選ばれた計15～16人で当たることとなっていますが、私たち青壮年会は、区の決められた人数枠以外に、青壮年会独自の人員枠を設定し、大注連縄づくりに参加しています。

これは、私たち若い世代が、注連縄づくりの伝統を引き継いでいきたいという思いと、日本古来の美しい伝統を守りたいという思いがあるからです。

作業を通して、年輩の区民の方々とも交流ができ、大変有意義な時間を過ごしています。

今後の活動見込み

今後も、こうした伝統を大切に、地域活動を行っていききたいと思います。



■高齢者の談話室、趣味活動

——古町長寿会 代表 大木下 俊次（構成員150人）

古区には、400戸あまりの世帯がありますが、近年高齢者世帯が増加しています。特に一人暮らしのお年寄りの世帯のほか、老々介護の世帯なども珍しくはありません。

このため、こうしたお年寄りの日頃のなやみ相談の場として、また、お年寄りの健康管理、閉じこもり防止、地域とのつながり維持を目的に、集会場を拠点に、高齢者の談話室を開設しています。



この談話室では、毎月一定期日を定めて、午前中を開放しだれでも参加ができるようにしているほか、その都度講師を招き、軽体操、転倒予防、防災、食生活等の講座も開いています。このほか、カラオケなどの趣味の活動も行っています。

談話室に運営には、民生委員や婦人会、老人会などのボランティアと、社会福祉協議会の指導や協力もいただいています。

今後もこうした取組を続け、お年寄りがいつまでも生き生きと暮らせる地域づくりに努めたいと考えています。



今後の活動見込み

談話室には、これまで多数のお年寄りの参加があったので、今後も古町長寿会を中心に、定期的開設し、趣味の活動や講座開講などを中心に、活動したいと考えています。

■区および各種団体の活動

——山室区 区長 平田 哲吾（構成員380人）

山室区では、人と人との交わりやつながりを、集落を活性化させ元気にする原点ととらえ、区と各種団体

が連携を強化して行事や活動を実践しています。

その中でも、区全体のイベントとして、4年ごとに次のイベントを交互に開催しています。

■区民体育祭 トリムパークグラウンドで開催

■区ふれあいまつり 文化祭

・・・作品展、演芸、班対抗競技、模擬店ほか

■区納涼祭 神社〇周年記念行事など

特にこれらのイベントを行うに当たっては、老いも若きも区民総参加をモットーとしており、その結集力は、他の集落に絶対負けないものと自負しています。

なお、単発のイベントだけでなく、区内の各種団体も、区の活性化に向けて、年間を通じてそれぞれの活動を積極的に展開しています。

第5回 山室ふれあいまつり

とき 平成20年10月12日(日)
午前10:00～午後4:00(雨天決行)
ところ 山室生活改善センター



主催:山室区
主管:ふれあいまつり実行委員会

- ★ゲームコーナー(豪華賞品当たるよ)
- ピンゴゲーム
- 種々の皮むき競争
- ★作品展(力作がたくさんあります)
- 絵・習字・手工芸・生け花・写真・自撮りの一品
- ★即売コーナー(欲しいものがあるかも?)
- 不用品バザー(種・型・その他)
- ★雑貨コーナー(おいしいものがたくさんあるよ)
- 焼き鳥・焼きそば・でんがく・豚汁・漬物・ビール
- ジュース・煎茶・抹茶・もちもち
- ★手作りそば(本格派そばを堪能してください)

切り取り線

利用補助券 金 200円	おたのしみ抽選券
利用補助券 金 200円	NO. 抽選会終了までお持ちください
利用補助券 金 100円	NO. 切り取って抽選箱に入れてください

今後の活動見込み

今後も引き続きこうした活動を継続するとともに、環境保全の観点から、景観形成や不法投棄防止等の活動にも取り組んでいきたいと考えています。



■区民の教養の高揚と交流、親睦を目的とする事業

——— 六日区区民講座 講座長 坪田 建昭（構成員250人 昭和46年設立）

私たち六日区の区民講座は、郵便局の簡易保険の集金手数料と区からの助成金を財源として活動しています。

区民の教養を高め、親睦を深めるためのクラブ活動として、法話クラブ、郷土史研究クラブ、華道クラブ、子ども太鼓、市姫太鼓、カラオケクラブ、健康講座クラブ、パソコンクラブ、料理教室などを行っています。

このほか、年に一度、区民文化のつどいを開催し、区民館でクラブの発表や講演会、区民の製作物の展示会、余興等を、食事をとりながら楽しんでいます。

こうした文化事業等を区民に周知するため、広報紙

「たけくらべ」を年2回発行しています。

過去の事業実績は次のとおりです。

- ・ソフトボール大会、ゲートボール大会、歩け歩け大会、グラウンドゴルフ大会

今後の活動見込み

郵政民営化により、簡保の手数料制度が廃止された場合でも、「六日区会館（区民館）」の事業として継続したいと考えています。

■子供みこし

——— 北区 区長 児嶋 文男（構成員100人）

「八幡神社の氏子としてすばらしい伝統文化を残していきたい」「幼年期の楽しい思い出としていつまでも語り継がれる行事にしたい」という思いから、北区で「子供みこし」事業を開始してから、事故もなく20年

が経過しました。

コモで覆った酒樽を利用した自家製のみこしは、コストのかからない簡素なものですが、3カ月の期間を要して作成しました。

このごろの子供たちは、クラブ活動や塾通いなどで全員がそろえることは難しいのですが、子供みこしには、極力参加するようにしています。

子供みこしは、毎年夏休み期間に行いますが、子供たちの楽しい思い出になっているようです。

子供も大人も一緒にみこしをかついで楽しい時間を過ごしています。

北区にはなくてはならない子供みこしですが、少子化の影響は免れず、子供の参加が減った時期もありました。それでも最近では徐々に参加する子供の数も増え、



にぎわいを取り戻しています。

子供みこしは、各家庭を巡回して、家々の繁栄を祈願するのですが、小さい子供がみこしのひもに引かれながら「ワッチョイ、ワッチョイ」といいながら参加する様子には、何とも微笑ましいものです。



子供たちが大人になって、今度は自分の子供と一緒に参加して一生懸命に世話している様子を見ると、この事業はなんとしても継続していきたいと思っています。

子供たちも、みこしを通して、地区の文化に関心を

持つようになり、ふるさとに対して愛着や誇りを持つことを願っています。

今後の活動見込み

北区の文化を残していこうという気持ちは、区民全員が思っていることです。

子供みこしは、今では北区の伝統行事として根付いており、区民みんなが北区の宝として子々孫々まで受け継がれていくことを望んでいるのです。

北区を一度離れた人も、子供を連れて来て参加できる、そんなすばらしい行事にしていきたいと考えています。



■女性部事業

——— あわらし商工会女性部 部長 大久保 輝子（構成員142人 平成18年設立）

あわらし商工会女性部では、私たちのふるさとを、より美しく住みよいまちにするために、次のような活動を行っています。

1 環境の保全に関する活動

・温泉街清掃

奇数月の15日早朝から、温泉街の清掃作業を行っています。（平成12年～）

・芦原温泉駅前清掃

毎年1回駅前の清掃作業を行っています。

・あわら湯の町駅前花いっぱい運動（花壇づくり）

平成14年から実施し現在に至っています。旧芦原町から奨励賞を受賞しました。



・エコキャップ運動

ペットボトルのキャップを回収しリサイクルすることで、発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを送っています。こうした取組は、CO₂の削減にもつながっています。

これまで、80,440個のキャップを回収し送付してきました。

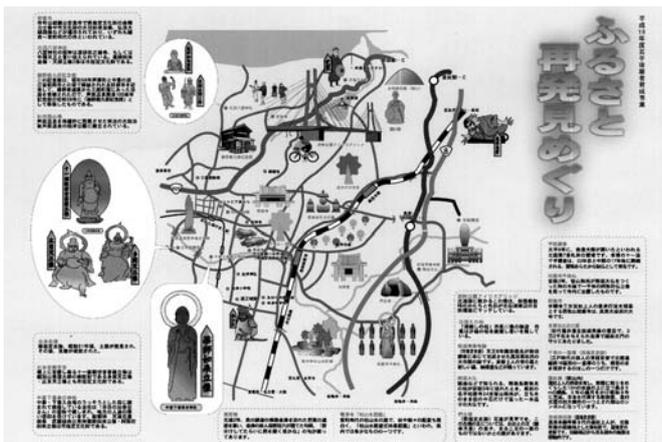


2 地域福祉の推進に関する活動

市が行っている健康長寿祭には、ボランティアとして参加しています。

3 地域の活力増進に関する活動

あわら市にあるふるさとの宝を再発見し、子どもたちにふるさとのよさを知ってもらうことを目的に、マ



ップづくりや「ふるさと再発見めぐり」といったイベントを行っています。

今後の活動見込み

1 及び 2 の活動は今後も引き続き取り組んでいきます。

3 のふるさと再発見は、2 年間にわたって実施してきた結果をさらにマップに落とし、平成21年3月には、各小学校や公民館に配付したいと考えています。

■ゆりの会

——— 熊坂区ゆりの会 代表 竹沢 美津代 (構成員9人 昭和49年設立)

熊坂区は、あわら市の東部、国道8号線沿いに位置しています。石川県との県境、あわら市の北の玄関口で、周囲を緑豊かな山並みに囲まれ、東が高く西と南が低い格好のよい盆地となっています。

私たち熊坂区ゆりの会では、約20年前から通販のニッセンさん沿いの国道8号線と農道間の管理地を利用して花壇づくりに取り組んでいます。

平成19年度からは農地・水・環境保全向上活動の一環として、景観形成をテーマに、地域住民との交流も深めてきました。

私たちも、区からの補助以外に、個人でも花の種や苗を持ち寄って、花のバリエーションを広げながら、花壇の整地、施肥等に、全員一丸となって取り組んでいます。

こうして、四季を彩る花畑を整備することにより、地域住民はもとより、来訪者や国道8号を通行するドライバーの皆さんに心の安らぎを感じてもらえるのではないかと思います。



今後の活動見込み

今後も、私たちは引き続きこうした活動を行うとともに、花壇の土壌改良をするため落ち葉拾いを行い、堆肥づくりにも取り組んでいきたいと考えています。

■あそぼっさ！

——— 金津かるたクラブ 会長 坪内 夏子（構成員12人 平成4年設立）

1 目的

当クラブは、あわら市内の大人と子どもが、かるた（百人一首）を通じて親睦を図り、希薄となった地域社会における大人（おんちゃん、おばちゃん）と子どもとの結びつきの強化に努め、併せて伝統文化の継承に資することを目的としています。

2 活動内容

当クラブの特色は、スポ少のような専門の指導者が子どもを指導するのではなく、地元市民と子どもが家庭的な雰囲気の中で交流を行いながら、週に2回かるたの練習に併せて、礼儀作法や百人一首の歌の意味なども勉強しています。

平成20年からは、新たに市内のお年寄りの方と当クラブの子どもたちとの交流の場を設けることとし、12月21日には坂ノ下地区の老人クラブの方と交流会を開催しました。

子どもたちのリコーダーによる演奏のほか、郷土かるたや折り紙などを使って一緒に遊びながら、お年寄りの方から昔のお話や遊びを教えていただくなど、楽しいひとときを過ごしました。

3 実績

平成20年11月に開催された全日本かるた協会主催「第31回全国小中学生かるた競技選手権福井大会」では小学3年生の部で金津小の堂高美緒さんが優勝、また、今年7日に開催された県内の教師でつくるTOSS(Teacher's Organization of Skill Sharing)主催「第5回五色百人一首福井県大会」では緑組で金津小5年生の田中ひなのさん、橙色組で同3年生の堂高美緒さんが優勝しました。

今後の活動見込み

来年2月には、かるたの色を五色に分けた五色百人一首を使った「第3回おんちゃん杯」を開催し、市内の小学生との交流を図ります。

また、今後も市内各地区の老人クラブなどの団体との交流を行っていく予定です。



■健康で長生き & 地域との絆かたく

——— 名泉郷老人クラブ（宝寿会） 会長 平井 剣鬨次（構成員72人 平成4年設立）

私たちは、自分の健康は自分で守り、自分で作り出すという意識のもと、次のような活動をしています。

・活き活き教室

会員の親睦と健康維持を目的に、月1回、ストレッチ主体の体操教室を開いています。最近では、子どもたちも参加するようになりました。終了後は、茶話会を開いて情報交換や近況などを話し合っています。平成16年には、県の健康づくり実践団体に登録しました。

・世代間交流の活動

平成17年に、子供とお年寄りの語り合いをテーマに「もったいない気持ち」の意識付けと題し、展示会を開催しました。

名泉郷会館に昔の品物や記録誌、写真などを多数展示するとともに、戦時中の物価統制時代のビデオを子どもたちと一緒に視聴し、お年寄りの体験話を通して、昔の子どもと現代っ子の気持ちの違いを話し合いました。また、昔の遊びを体験したり、終戦後の食事である「ぞうすい」「すいとん」をみんなで作って試食したりして、子どもたちと大人との交流を深めました。

・健康アドバイザーの結成

平成18年地域づくり事業の一環として、区内在住の看護師、介護福祉士等10人の皆さんの協力を得て健康アドバイザーチームをつくりました。毎月第3土曜日の午後に、アドバイザーが2人ずつ交代で会員を対象とした血圧測定や健康相談を受け持ち活動しています。

・そばづくりに挑戦



区内の遊休地60坪を借り受けて、そばを栽培しました。収穫したそばは、粉引きからそば打ちまですべて自分たちで行いました。

・地域美化活動

区の花壇を管理しているほか、広場の草刈り、空き缶拾い、ゴミ拾いなどを行い、区内の美化向上に努めています。



・講習会の実施

民生委員による体力テスト、理学療法士による転倒防止予防講座、あわら警察署による交通安全講習、作業療法士による認知症予防講座などを実施しています。



今後の活動見込み

これまでの活動をふまえ、今後も会員が心身ともに健康で長生きし、福祉の受け手ではなく地域の担い手として、貢献できる老人クラブ（宝寿会）として発展させていきたいと考えています。

■地域づくり世代間交流事業

——— 舟津温泉寿会 会長 北山 典型（構成員126人 昭和39年設立）

舟津温泉寿会は、全国老連のメインテーマである健康づくり、奉仕活動、友愛活動を基本に、高齢者としての知識や経験を生かし、地域の活性化と会員の親睦に取り組む活動を行っています。

1 地域づくり事業

・桜まつりへの参加

毎年春に舟津公園で行われる桜まつりに、模擬店を出店し参加しました。

・ヒノキ会創立20周年記念大会への協力

舟津温泉区の中年会であるヒノキ会の創立イベントに協力しました。

2 世代間交流事業

・資源回収への協力

舟津温泉区の資源回収は区のアスナロ子ども会が年4回行っていますが、近年の少子化の影響で子どもたちの数が少なくなったことから、私たち寿会も資源回収に協力しています。こうした取組により、子ども会との融和も深まっています。



・そばづくり体験実習会の共催

平成18年度に県いきいき支え合い事業の指定を受け、世代間交流事業として行ったそばづくりも平成20年で3回目を数えました。子どもと高齢者が力を合わせて取り組んでいます。

・ラジオ体操への参加

子ども会が夏休み期間中に行っているラジオ体操に、私たち寿会も参加し、子どもたちや保護者の皆さんとの交流を行っています。

3 会員親睦の事業

・健康、趣味づくり活動

お年寄り相互の語らいの場として公園ひろばと称す

る高齢者サロンを月2回開設しているほか、親睦旅行や講演会、懇親会の開催のほか、グラウンドゴルフや習字、囲碁などのクラブ活動を行っています。

・奉仕活動

毎月1回、公園の除草と清掃、空き缶拾い等を行うほか、忠魂碑の清掃も行い、環境の美化に努めています。



・友愛活動

会員相互の助け合い運動として友愛募金活動を行い、集まった募金を市老人クラブ連合会に贈るほか、米寿以上の会員にも粗品等を贈っています。

このほか、高齢者生きがい活動支援通所事業を開催し、心の健康づくりに努めています。

今後の活動見込み

できるだけ介護を受けず、健康で暮らすことを目的に、舟津温泉家庭相談所を開設したいと考えています。この相談所では、会員が健康で安心できる地域づくりのため、生活に関する苦情や相談を受け付けたり、その改善に取り組んでいきます。

また、ボランティア委員会の設置も視野に入れ、一人暮らしの会員の買い物、通院等の送迎を行ったり、住宅の簡単な修繕も手がけていきたいと考えています。

そして、共助の精神と友愛の心をさらに深めるため、一層努力したいと考えています。



■民謡・金津恋々、金津音頭普及活動

——金津民謡クラブ 会長 笹田 幸雄（構成員15人 昭和43年設立）

金津民謡クラブは、金津音頭、金津恋々音頭及び各地方の民踊の研究と普及並びに会員の親睦と健康づくりを図ることを目的に、明るいまちづくりに寄与しています。

昭和43年の発足当時は、50人ほどいた会員も、今では15人にまで減ってしまいました。

しかし、知らない人同士がクラブに集い共感する心をはぐくむことこそ、現代社会において大切なことではないかと思えます。その活動は幅広く、とても充実しており、ふるさとへの思いを強く感じます。

金津恋々音頭は、平成8年6月の「トリムパークかなづ」のオープンに当たり、金津を象徴するにふさわしい唄と振り付けができました。私たちは、これからも藤巳会の藤井鈴子先生のご指導をいただきながら、後々まで誇りを持って受け継いでいきたいと思えます。

毎週水曜日と第1、第3金曜日の午後7時30分から練習を行っており、全国の民謡から花火音頭、おばQ音頭、きよしのずんどこ節まで、どんな曲でも踊れます。



その他ボランティア事業として、丸岡町霞が学園、丸岡デイサービスセンター、坂井町豊楽園、坂井ケアセンター、あわら市子育て支援センターなどの施設訪問も行っています。

今後の活動見込み

若い世代や子どもたちにも民踊に触れてもらい、ふるさとの伝統文化を伝えていきたいと思えます。

また、施設訪問などのボランティア活動を継続することで、多くの人と交流の場ができ、生きがいづくりや健康増進にもつながると思えます。

さらに、民踊を通じて吉崎音頭や細呂木音頭などの他の団体とも交流することで、ふるさとのアピールを行っていくことができると考えています。



平成20年の主な活動は次のとおりです。

- 3月 県民総合文化祭 民謡・民舞・民踊フェスティバル出場（かなづ恋々音頭発表）
- 8月 あわら湯かけまつり
金津民謡大会
古町地藏祭
- 9月 御簾尾開山忌
- 10月 県選抜芸能祭
- 11月 あわら市民文化祭 芸能発表出場



■地域の農業を活性化し元気を取り戻す

——— 劔岳ファーム 代表 伊戸 紘孝（構成員10人 平成18年設立）

中山間地域に属する私たちの地区では、農家の営農意欲も減退気味で、将来に悲観的なムードがただよっていました。ところが、平成18年から集落営農組織を立ち上げたことにより、日々の活動を通じて、農業従事者としての存在感を周囲にアピールすることができるようになるとともに、こうした活動が営農スタイルのシンボルとして確立しつつあります。

私たちは、土づくりから育苗、乾燥調製出荷まで管理するとともに、酒米の栽培や転作裏作のそばの製麺

販売まで手がけています。

こうした取組を通じて、所得の向上はもとより、食に対する安全安心を心がけています。

今後の活動見込み

地域を生かした活動を目指すとともに、昔ながらの手作り食（味噌、醤油、揚げ、豆腐など）を提供していきたいと考えています。

■集落センター清掃事業

——— 城区婦人会 代表 朝倉 朋子（構成員10人）

私たち城区婦人会では、共同施設である集落センターの維持管理と、交流が少なくなりつつある婦人たちの集いを目的に、「集落センター清掃事業」を行っています。

年2人ずつの当番制で、月に1回の清掃を行い、年末には会員全員で大掃除を行っています。

最近では、業者頼みになりそうな障子はりも、会員みんなで行っています。

この活動が、城区の共同施設の維持協力と、世代を超えた婦人同士の交流のきっかけになっていると思います。

今後の活動見込み

今後も、この活動を継続していきたいと思います。



■二温祭の実施

——— 二温祭実行委員会 会長 小濱 弘範（構成員100人 平成18年設立）

二面温泉区は現在、世帯数677世帯、人口は1,410人とあわら市最大の行政区です。

「二温祭」とはこの地区の納涼祭です。

この実行委員会を立ち上げたのは、二温会（青壮年会）のメンバーです。このほか、実行委員会のメンバーには婦人会や子ども会などに入ってもらい、それぞれ得意な部門を担当してもらっています。

さて、この納涼祭ですが、はじめてから今年で三回目になります。かつては毎年のように行われていたのですが、いつしか途切れてそれっきりになっていたそうです。私たちの中に何とか昔のようなにぎやかな街並みを再現したいという思いがありました。区長さんもととも理解を示してくださり、予算の面からも協力していただきました。



その結果、区民が一堂に会し、親睦と融和を図られれば言うことがないとも思いました。

また、各種団体が、二温祭の実施に向け結束するこ



とにより、連携強化が図られ、自分達が自ら楽しめるものとしたとも思いました。

皆さんの反応ですが、とりわけ年配の方には評判がよかったです。久しぶりに人が集まる様子がうれしかったようです。

かつてはにぎやかだった町並みを覚えているからでしょうか。そして一様に「来年もやって頂戴ね、楽しみにしているよ」といってくれました。

今後の活動見込み

二温祭の実施には、まだ次のような課題があります。

課題

- 参加が全世帯の5～6割 → さらに広報活動が必要
- 模擬店の食べ物不足 → 量・種類を増加
- スタッフの不足 → ボランティアスタッフの募集

今後は、課題についてさらに検討し、区民総出の盛大なお祭りにしたいと思っています。



■地域資源を活用した取り組み

————— 劔岳ゆめの会 会長 宗石 徹（構成員10人 平成15年設立）

劔ヶ岳は、あわら市の東部に位置し、東斜面は坂井市丸岡町へと続く標高567メートルの山です。

その名のいわれは、神代の時代に大国主命が坂井平野を治めるために、この山頂で平野を一望し、策を練ったという故事に由来します。山頂の祠には、大国主命の劔が納められていたといわれています。この劔は、今でも丸岡の神社にあるということです。

劔ヶ岳の西側の裾野にある7集落は劔岳地区と呼ばれ、この山をシンボルとして、ともに活動をしてきました。そして、地区住民のほとんどが、親子、親族を連ねて、年に1度は劔ヶ岳登山をしています。

劔ヶ岳の登山道は、清滝にある清滝ダムの登山口（240メートル）から始まります。

はじめしばらくは、草の繁る谷沿いの道となりますが、そこを抜けると、クリ・コナラ林、ミズナラ林と変わる垂直分布が比較的明瞭に見られ、また、乾燥した尾根筋には、アカマツ林が分布しています。そして、山頂付近には、貴重な原生ブナ林が残されています。

私たちは、劔ヶ岳に象徴される地域住民の協調意識と、県みどりのデータバンクにも掲載された原生ブナ林を守ることを目的に、登山道の下草刈りや整備を行っています。

主な活動実績

- ・毎年8月中旬に、登山道の整備を行う。
- ・登山道に不備の情報があったときは、緊急整備を行う。
- ・山頂の祠の維持管理（過去に会員50人による大規模修繕を実施した。）

今後の活動見込み

毎年行っている登山道の整備を継続して行うとともに、林道劔ヶ岳線の開通に伴う山頂への新ルートを整備したいと考えています。

また、山の自然に親しんでもらうため、樹木や草花の名前を紹介しながら一緒に登山するボランティア活動にも力を入れたいと考えています。

■青年団主催報恩講

——— 城区青年団 代表 山下 暁弘（構成員2人）

城区では、戦前より、毎年2月に青年団主催による報恩講を開催しています。

以前は、当番の団員の家で、3日間にわたって報恩講をしていましたが、区に集落センターができたのを機に集落センターで行うようになりました。これに伴い、3日間の報恩講も1日に短縮されました。

報恩講の日には、城区の区民以外に他の地区の方も参加し、にぎやかに行われています。

戦前から続く行事であり、老人会から子ども会まで、地区の老若男女が全員参加しています。

今後の活動見込み

今後も継続していきたいと考えていますが、団員が減少している中、区とも協力して継続していきたいと考えています。伝統を引き継いでいくことこそ大切だと考えています。

■花壇づくり・イキイキ3B体操クラブ・芦原っ子見守り隊

——— 西温泉区花友会 代表 齊藤 和子（構成員15人 平成15年設立）

1 花壇づくり

西温泉区には、3カ所の道路分離帯がありますが、数年前までは畑として住民が利用していたり、雑草に覆われたりしていました。区内には、温泉旅館もあり、時折周辺を散策されるお客様の姿が見受けられますが、好ましい景観ではありませんでした。

西温泉区には、子ども会や青壮年会、長寿会などの組織がありますが、婦人会はありません。そこで、私たち仲のよい婦人同士（当初6人）のうちで、分離帯

に花などを植えて利用できないかとの話が持ち上がり、畑を作っていた方の理解を得て花壇として活用しました。

毎年春には、市の花いっぱい運動と連動し、秋には種まき講習会などに参加して取り組んでいます。おかげさまで、昨年の花壇コンクールでは、優秀賞に入り、努力の成果だと喜んでいきます。

作業日は、3月から11月までの毎月第1・第3土曜日で、午前6時30分から2時間程度の除草作業や整備を行っています。

区からも助成をいただき、用具や肥料などを調達していますが、最近では、「沿道にある分離帯は西温泉の玄関口になった」と地域住民の評価を得るに至りました。

2 イキイキ3B体操クラブ

最近生活習慣病などが取りざたされている中、自分たちの健康は自分たちで守ろうということから、区民館に講師を招いて、昼の部と夜の部に分かれて月4回、イキイキ3B体操クラブを行っています。

3 芦原っ子見守り隊登録参加

芦原っ子見守り隊にも登録し、区の出入り口の通学路で、朝夕登下校寺の児童に「おはよう」「おかえり」の声かけをしています。

このほか、冬期間はお茶会を開いて、相互の情報交換を行ったり、おはぎなどを作って一人暮らしのお年寄りに配ったりしています。

今後の活動見込み

今後も私たちが中心となり、コツコツとした活動を通して、一人一人に自然と理解される区の婦人部グループとなることを願っています。



■農地・水・環境保全向上対策活動

———番田・美土里を創り育てる会（略称：番田・美土里会）

代表 小林 紳（構成員140人 平成19年設立）

番田区では、近年、少子高齢化が進み、農業活動やコミュニティ活動の低下が見られる中、国の「農地・水・環境保全向上対策事業」を地域活性化と地域資源保全の絶好の機会ととらえ、平成19年4月に、「番田・美土里会」を立ち上げました。

会が目指すのは、区民の連携と協力活動を活発化し、農地や農業用施設、農村環境の良好な保全と質的向上、景観の形成に努め、「美しく恵み豊かで心が通い住み良い里＝美土里番田」を創り育て、後世に残していくことです。その核となる活動が、農地の排水路法面に防草シートを張り（総延長6km）、そこにシバザクラを植栽するという活動です。



あわら温泉の南の玄関口に位置する当区が、春になると地区全体がピンク色のシバザクラに包み込まれ、美しい田園風景が広がり、区民のみならず観光客などの来訪者も心が和むような里になることを目指し、その実現に向けて区民が一丸となって取り組むこととしました。

平成19年度は、えちぜん鉄道沿いの排水路法面に約840mに防草シートを張り、シバザクラを植栽しました。また、平成20年度は、10月に農村公園付近と、当区北側に位置する排水路法面、計約1650mに防草シ

ートを張り、平成21年3月には、シバザクラを植栽することとしています。

シバザクラの植栽や農村公園の防草シート張りには、非農家の方も参加しています。区民と一緒に汗を流し、和気あいあいとした共同作業の中で連帯感が強まるとともに、当区に対する愛着心と自信が深まっていると考えています。

また、11月の勤労感謝の日には、番田・美土里会の懇親・慰労会として、子どもからお年寄りまで多数の参加を得て、当区産の新そばを食する祭り&大ビンゴ大会を開催し、喜ばれています。

このほか、当区では、区と農家組合を中心に、排水路の泥上げ作業や竹田川右岸堤防の草刈り、農村公園の除草・清掃を行っているほか、青壮年会による集落内道路側溝の泥上げ、女性部による花壇整備、老人会による神社の清掃、女性部と子ども会による定期的な空き缶ゴミ拾い活動など、従来からの農村環境の維持・保全活動も工夫しながら実施しています。

地域力の源は「人」であり、「地域の資源をいかに活用して活力ある活動をするか」と考えており、農地・水・環境保全向上対策活動を中心に、区民全員による活動が活発化してきたことを大変喜んでいます。

今後の活動見込み

区民が力を合わせて総延長約6kmに及ぶ防草・緑化活動を完遂するとともに、シバザクラ植栽後の維持管理を継続していきます。

農地・水・環境保全向上対策活動に係る国の事業が終了しても、番田・美土里会を何らかの形で維持し、将来的には、竹田川を活用した親水活動や環境学習を行うなど、当区の魅力を発掘しながら環境保全向上活動を継続し、当区の維持・発展と活性化につなげていきたいと考えています。



■吉崎御山の緑化推進事業

——— 吉崎御山植樹実行委員会 代表 四方 政美（構成員17人 平成20年設立）

吉崎地区には、国の指定史跡で市民の憩いの場でもある「吉崎御山」がありますが、近年この美しい松林の松食い虫による松枯れの被害が深刻な状況になっています。昭和20年代には約130本の松がいましたが、現在では60本にまで減っています。

このため、吉崎の宝である「御山」を元気な緑に再生し、未来につなぐ元気なふるさとづくりを推進するため、平成20年に区長会を中心に賛同者が集まり、「緑の募金事業」を活用して「蓮如の里植樹会」を実施しました。

各団体との連携も順調に進み、緑化促進だけでなく、地域活性化にもつながっています。

平成20年11月7日に初めて行った植樹会には、緑化推進委員会、地区役員、学校関係、東西両別院、警察署など多くの関係者に出席いただき、開会式を盛大に行うことができました。



吉崎小学校・幼稚園の児童・園児とその父兄の方々、老人会会員に皆さんが、ともに手を取り合いながら植樹を行うことにより、人との絆、緑の大切さを学ぶ「ふれあい事業」として意味深いものとなりました。

植樹会は、子どもたちにとって、緑（自然）の恵みの大切さ、緑を育てることの厳しさなどを知る学習の場となり、前日の準備から参加していただいた老人会の皆さんにとっても、記憶に残る事業となったことと思います。

また、「あわら地区高齢者交通安全リーダーの会」の参加も得られ、植樹とともに「交通安全」も祈念されました。

「植樹」という目的を共有することにより、区民全体の連帯感がこれまで以上に強く結ばれ、美しく誇りの持てる元気な地域づくりの一端を担うとともに、郷土に対する理解と愛着が一層深まる事業になりました。

この植樹を続けていくことが、今後高齢化と過疎化の進む吉崎地区にとって、地区民同士のコミュニケーションと、「おもてなしの心」を昔から伝承してきた「吉崎」、観光地としての「吉崎」をアピールすることへつながるものと考えています。

子どもたちの成長とともに、樹木もぐんぐん大きく成長するでしょう。緑豊かな「御山」づくり、また、事業を通じての活気ある地域づくりに邁進していきます。

今後の活動見込み

「蓮如の里宿寿会」を地域活性化や郷土愛の醸成など、意味深いものにするため、今後も地区全体を取り込んで継続していきます。

また、たくさんの人たちに、史跡と景観を楽しんでいただくためにも「吉崎の宝、あわら市の宝」として、環境整備に努めていきます。



■町興し地域活性化事業

——— 蓮如の里物産展実行委員会 実行委員長 一力 義廣（構成員16人 平成20年設立）

覚えているでしょうか、「蓮如忌」のにぎわい。
時代背景など、原因はいろいろあるでしょうが…。

地区内の行事など、何事においても昔のように人が集いにぎわうことが少なくなり、寂しい限りです。

手をこまねいていても、現状は変わらない、「町興し」のため区民が何かできないか、こうしたことから、地域活性化事業の一つとして、「蓮如の里物産展実行委員会」を立ち上げました。

まずは、10月5日と12日に開催された「蓮如上人記念館10周年」イベントとあわら市主催「日本文化興隆に向かって～蓮如さんの里から」シンポジウムに合わせて、蓮如さん（地元）に関連した観光物産展を行いました。



振興会・農家組合の協力をいただき、蓮如の里（地元）限定のお酒、菓子、地元産の米などの販売を行いました。



また、OB会の有志の方々には、イベントを盛り上げるため、焼き鳥やビールなどの模擬店を出店していただきました。



「観光物産展」を「町興し」の事業一環として試みましたが、「観光振興のまちづくり」の観点からも、大変な盛り上がりを見せ好感触が得られました。

また、地区の皆さんからは、物産選出、販売促進企画等に知恵を出していただき、よい交流の機会になりました。

こうした活動は、「吉崎に元気を…」と危機感を持っておられた区民の方々にとっては、いい意味で刺激になったと思います。

これからも、この事業を充実させるため、多くの団体に参加を呼びかけていきます。

この「蓮如の里観光物産展」を、地区のいろいろな事業に結びつけ、地域活性化のお手伝いができるよう、これからも関わっていきたいと思います。

今後の活動見込み

「蓮如の里観光物産展」町興し事業の一環として、今後も継続していきたくと思っています。

蓮如忌、また、東西両別院主催の「親鸞聖人750回御遠忌・大遠忌」イベント等に際しては、全国から大勢の人が予想されます。そのためにも、近隣地区からもこの事業に参加いただき、「蓮如の里観光物産展」をより一層確立した事業にしていきたくと思っています。

■地区遊園地の草取り美化活動

————— 金津第一老人クラブ 会長 麻畑 堅（構成員94人 平成3年設立）

金津第一老人クラブでは、地区の子どもたちが安全で健康に遊べ、かつ、災害などが発生した場合も、即避難場所として負うよう可能なように、地区の遊園地・公園の清掃と草取りを年間を通じて4回（5月、6月、8月、9月）実施しています。

公園の面積は約600坪あり、除草剤の散布と手作業による草取りをし、美化運動に心がけ、住みやすいまちづくりを目指しています。

活動に当たっては、特に、子どもたちが健康的な遊びができるように、そして、安心安全に遊べるようにと心がけています。

今後の活動見込み

私たちの活動が、少子化対策に少しでも貢献できればと思っています。

そして、これからも公園の草取りや清掃を続け、子どもが安心して遊べる住みよいまちづくりを目指すとともに、子どもへの声かけ運動と、見守り運動も行っていきたいと思っています。

■景観作物の栽培と花いっぱい運動

————— 二面老人会 会長 坂本 幸雄（構成員20人）

私たちは、平成19年から、二面公園前の遊休農地を利用して、花の栽培を行っています。

平成19年は、コスモスを栽培しました。ところが、種まき後の発芽が悪かったため、よそから集めた苗を何回か補充しましたが、生長と開花にバラツキが発生しました。また、その後も茎や根の状態が弱く、風で倒れるものが多発し、支柱立てに追われる日々が続くなど、大変手間がかかった割には、一斉に満開が見られず、失敗の状態でした。

平成20年は、花を変えて、ひまわりを3畝、サルビア1畝、ペゴニア0.5畝を作付けし、水やりや施肥をまめに行った結果、順調に生育しました。除草なども常に心がけたので、8月の開花時には、赤と黄色のコントラストが美しい景観となり、子ども会の写生会も実施することができました。

このほか、毎年恒例の花いっぱい運動に参加して、区民館前にプランターを運び、3月から10月までの約8カ月間、役員7人が週単位の交代制で、花の水やりや施肥等を毎日実施してきました。

また、神社境内の除草清掃作業も会員で春夏2回行っています。

今後の活動見込み

こうした作業を今後も続けていく予定です。

問題点として、会員の高齢化が進み、参加人数が徐々に減ってきたことから、力仕事ができなかったり、夏の暑い時期には、作業の範囲や時間に支障がでてきたりしていることがあげられます。

今後は、もっと若い人（特に男性）に入会してもらって、作業を続けていきたいと考えています。

発行 平成21年 3 月
福井県あわら市

編集 あわら市総務部政策課
〒919-0692 福井県あわら市市姫三丁目 1-1
TEL 0776-73-1221(代)